

Title	「貿易摩擦」構造のゲーム論的分析「牛肉」と「飼料用穀物」をめぐる対立と協調
Sub Title	
Author	伊藤譲一(Itou, Jiyouchi) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第254号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0254

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 伊藤 讓 一

主査 小林 規 威

副査 青井 倫 一

所属ゼミナール 青井 倫 一 研

高山 隆 三

「貿易摩擦」構造のゲーム論的分析 — 「牛肉」と「飼料用穀物」をめぐる対立と協調 —

現在、日本に対するアメリカの牛肉自由化要求は強い。しかし、アメリカ牛肉産業を見る時、生産者団体の圧力は実体のない、政治的なものであることがわかる。一方、流通業者の中で、日本市場に関心のあるものは巨大パッカーといわれるプロセッシングとマーケティングを行なう業者である。しかしアメリカの牛肉生産量に占める対日輸出は経済的な理由によるものではないことは明らかである。日本側で自由化に最も反対しているのは牛肉生産者である。日本の牛肉生産は戦後の選択的拡大にともなう蓄産振興によって拡大されてきた、この方向は実はアメリカ飼料穀物生産者の利害を反映したものである。対日自由化要求は一見アメリカ内部での牛肉、穀物の対立をひきおこしそうであるが、穀物生産者も牛肉価格の低下、消費拡大に興味を持っており、この様な中で、日米両国にまたがるプレイヤーたちのミックストモーティブゲームが展開されており、これが摩擦の構造である。